

## Y路地に人生を重ねる

彦島の印象は色々あるが、下関市街地から盲腸のごとくのびた島にも、私には見える。江の浦地区は、彦島でも比較的古い町並みが残っている。外装にモザイクタイルを使用したたばこ屋さんを撮影して、その反対側の路地に入り込んでみた。

私は路地が大好きで、どこへ行っても路地があると、すっと入ってしまう。今回は、広い通りからY路地を発見した。Y路地は何か不思議な人を引きつける魔力のようなものがあると、私は常に思っている。それはまさに人生の岐路に立った時に迷って進むかのごとく、私の前に立ちふさがるのである。

そのY路地には手前が30センチほどの幅しかない民家が残っていた。



その路地の左側では、昭和初期に建てられた木造の家の表面を洋風スタイルにした、「看板建築」と呼ばれる建物が印象的だった。正面2階上のファサードの一部は左官職人の腕の見せどころである。装飾模様が、この建物がただのものではないことを物語っている。

一般人が素通りする街角や路地で多大な発見をし、分析し、全国各地と比較しながら、その場でいろいろと解説してくれるのが町田流。たとえば下の写真でも「これきっと、元は旅館だよ」と、ずばり言い当てる。



庶民文化史研究の達人

## 町田忍の下関レトロ徘徊記

# 「彦島は宝島」

庶民文化の巨匠、町田忍さんの下関を巡る旅も四回目。

江戸っ子のリズムで巨匠いわく「下関は毎回新しい発見のある、実に楽しい場所だよ。ポイント高いよ！」。

今回、歩き回った彦島でも、巨匠の五感がフル稼働して大漁。

島は島でも「宝島」という、うれしい結論が待っていた。

好評の、下関お気に入り銭湯入浴記付き。



さあ、空を見上げて  
宝探しに出発だ！

文・写真〓町田忍  
※町田忍氏の撮影〓大野全繁

町田忍（まだだ・しのぶ）  
昭和25年（1950）東京生まれ。全国各地、見落とされがちな風俗意匠を研究する庶民文化史研究家。「庶民文化研究所」を設立している。著書は「昭和なつかし図鑑」（講談社文庫）、「懐かしの昭和30年代」（扶桑社）、「納豆大全」（角川文庫）、「銭湯遺産（戎光祥出版）など約50冊。現在、ニッポン放送「高嶋ひでたけの特ダネラジオ・夕焼けホットライン」の昭和コーナーに毎週火曜出演中。

